

4 地区の将来像とまちづくりの方向性

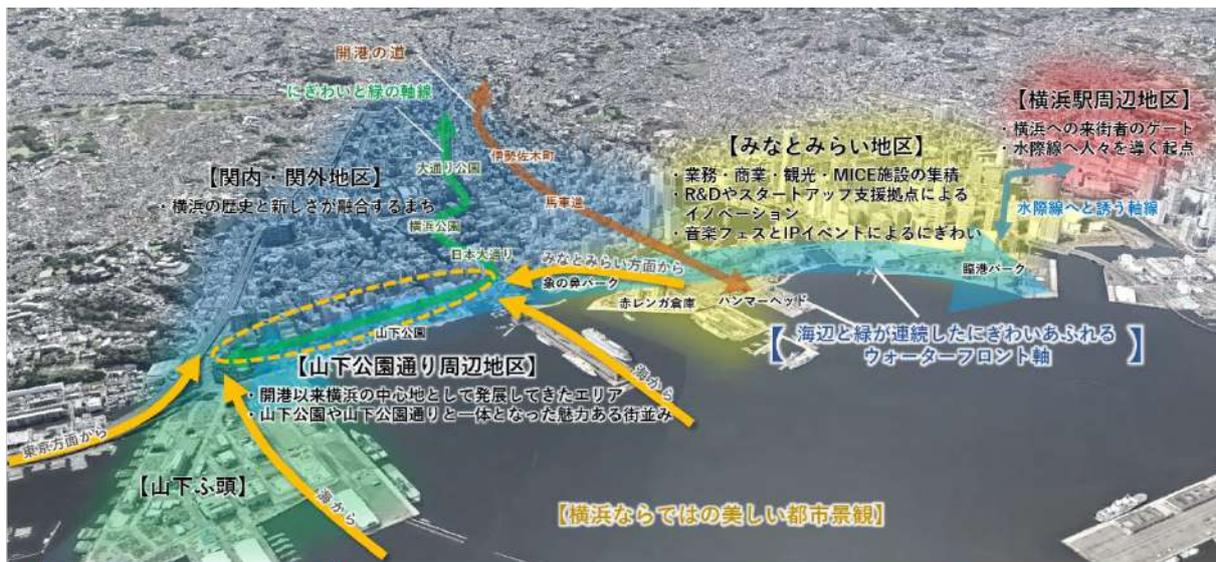
(1) 水際線の魅力向上によるまちの活性化

水際線の特性

臨港パークから赤レンガ倉庫、象の鼻パーク、山下公園、そして山下ふ頭へとつながる水際線は、美しい海の景色と豊かな緑により、国内外の人々を惹きつける世界屈指のウォーターフロントを形成し、周辺には、音楽アリーナや観光・商業施設をはじめとする様々な観光資源が集積する、他都市にはない横浜独自の魅力を有しています。

また、水際線エリアは、業務、商業、MICE 施設等が立地するみなとみらい地区や、開港以来の歴史が残る関内・関外地区に位置しており、その周辺の横浜駅周辺地区等を含めた都心臨海部は横浜の成長をけん引しています。

その中でも、関内・関外地区に位置する山下公園通り周辺地区は、開港以来横浜の中心地として発展してきたエリアで、歴史と文化を色濃く残し、山下公園や山下公園通りと一体となった魅力ある街並みを有する、横浜の顔ともいえるべき地区です。



画像 ©2025 Google, Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO, Airbus, Landsat / Copernicus, Data Japan Hydrographic Association, 地図データ ©2025

水際線の魅力向上によるまちの活性化

水際線エリアは、まちと海が近い立地特性や、多様な観光資源、緑や海を感じられる緑地空間など、多彩な魅力資源を有しています。これらの魅力を時代に合わせてアップデートするとともに、にぎわいや交流を生む新たな機能を加え、歩きやすく居心地が良い空間や移動しやすい環境を整備することで、各エリアを線でつなぎ合わせて面としての魅力を創出していきます。

水際線の多彩な観光資源の魅力の磨き上げと、横浜の玄関口となる「横浜駅周辺地区」や、開発により拠点化が進む「関内駅周辺地区」、山下ふ頭と結節する「山下公園通り周辺地区」など、都心臨海部の各エリアの結節点におけるまちづくりを連動させ、さらに、水際線とまちなかを結ぶ回遊軸を強化することで、まち全体を活性化していきます。

結節点におけるまちづくり

■既に取り組んでいる地区

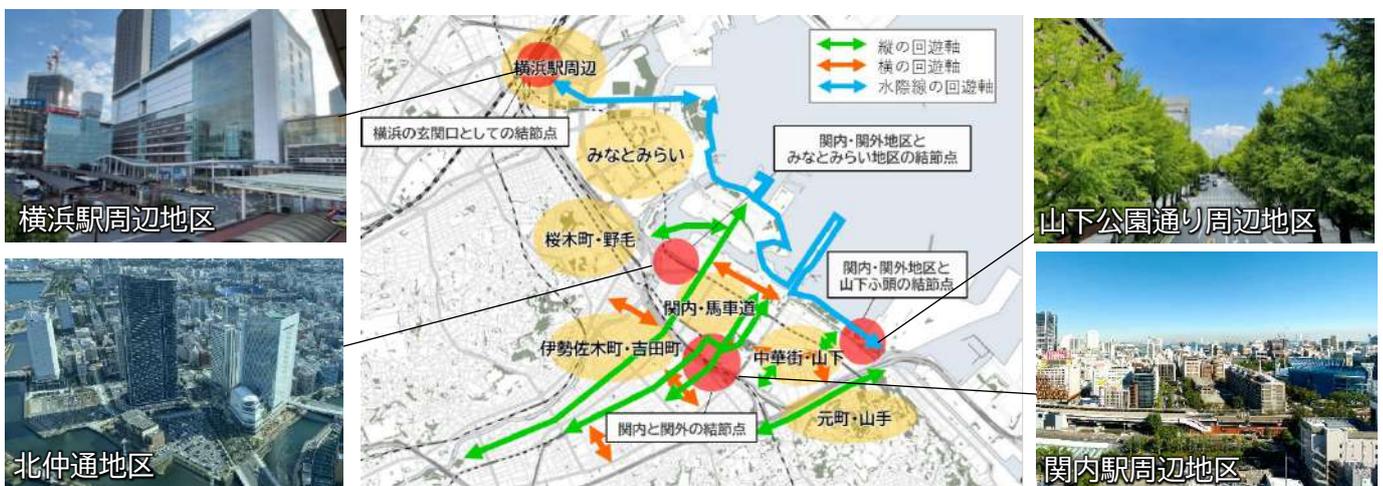
【横浜駅周辺地区】横浜の玄関口としての結節点：国内外からの投資や人材を呼び込み、商業や業務機能、交通ターミナル機能を強化。特に横浜駅東口は、横浜への来街者を迎え入れる起点として、みなとみらいエリアや水際線へ導くゲート機能を強化。

【北仲通地区】関内・関外地区とみなとみらい地区の結節点：業務、商業、宿泊、観光施設、都市型住宅や多様な文化施設等の複合的な都市機能の集積を図り、文化芸術を中心とした新たな創造都市づくりを推進。

【関内駅周辺地区】関内と関外の結節点：「国際的な産学連携」、「観光・集客」をテーマに、インベーションオフィス、大学、エンターテインメント、スポーツ・健康等の集積、ウォークアブルな歩行者空間を整備。

■今後取り組む地区

【山下公園通り周辺地区】関内・関外地区と山下ふ頭の結節点：山下公園通り周辺地区の歴史的・文化的価値、自然と景観、観光とアクセスなどの魅力を磨き上げて、水際線の象徴となるまちづくりを推進。



(2) 地区の将来像

この地区の更なる発展と水際線の魅力向上を図るために、歴史や特性などを踏まえ、将来像を「港町の歴史、美しい海や緑、新たな魅力とにぎわいが織りなす水際線のまちづくりにより、世界の人々を魅了するまち」と決めました。

また、地区の将来像の実現に向けてまちづくりの方向性を6つに区分し、地区の将来像のイメージとして設定しました。

地区の歴史・現状

【歴史】	<ul style="list-style-type: none"> ・開港に伴い外国人居留地が形成され、その歴史や背景がまちの個性になっている ・関内・関外地区と山下ふ頭の結節点、緑の軸線上に位置 ・水際線の一部を形成する重要な地区、羽田空港等へのアクセスに恵まれた地区 ・周辺には魅力的な観光スポットが集積 ・横浜らしい歴史を色濃く残した街並み ・銀杏並木が連続する山下公園通り、海や緑を身近に感じられる山下公園に近接 ・落ち着いた雰囲気を感じられる水町通り ・文化、宿泊、観光施設、公共施設が集積 ・築40年以上の老朽化した施設が点在、共同住宅の増加 ・多様な交通モードが集積 ・首都高速道路の出入り口に近接 ・津波、高潮による浸水区域、液状化危険度が高い区域
【立地特性】	
【街並み・景観】	
【建物現況】	
【交通インフラ】	
【防災】	

特性

- ・横浜独自の魅力を有する水際線の結節点に位置
- ・歴史性が根付く街並み
- ・海や緑を身近に感じる立地環境
- ・多様な人々や文化を受け入れ発展してきたまち
- ・羽田空港や客船ターミナルなど、国内外から人々が訪れやすい立地

課題

- ・施設の老朽化や低未利用地の増加
- ・地区のにぎわいが低下傾向
- ・歩道空間が十分確保できていない区間がある
- ・交通機能・乗降環境充実の必要性
- ・夜間が暗い印象を受ける
- ・災害への対応

地区の将来像

港町の歴史、美しい海や緑、新たな魅力とにぎわいが織りなす
水際線のまちづくりにより、世界の人々を魅了するまち

まちづくりの方向性

- ①横浜の水際線の魅力を活かしたまちづくり
- ②今ある海辺と緑の風景と連動させた新たな GREEN 空間の創出
- ③国内外から人や企業を惹きつける多彩な機能の導入
- ④来街者を迎え入れる結節点としての機能強化
- ⑤環境に配慮した持続可能なまちづくり
- ⑥災害に強いまちづくり

(3) まちづくりの方向性

① 横浜の水際線の魅力を活かしたまちづくり

開港の歴史が感じられる街並みや、銀杏並木が立ち並ぶ山下公園通り、緑や海を身近に感じる山下公園など、この地区ならではの長を活かして、ウォーカブルな歩行者空間の確保に向け、歩きやすい空間や居心地の良い滞在空間の整備など、水際線の象徴となる景観を有したまちづくりを推進します。

■公共空間を活用した海と緑を感じられるまちづくり

- 公園や道路の植栽、建物配置等を工夫し、街区側から海への眺望を確保します。
- 山下公園の柵や植栽等の工夫により公園と道路を一体的に活用できる設えとするなど、街区や山下公園通りから、海や公園を身近に感じられるまちづくりを推進します。
- 開発などにより、山下公園通りや水町通りの歩行者の通行空間を拡げるなど、快適に歩ける環境を整備します。
- 建物の公開空地や道路の交流・滞在空間に人々が憩えるストリートファニチャーや、安らぐことができる緑化空間、楽しめるアートなどを点在させることで、まちなかに変化をもたらし来街者が歩きたくなる環境を創出します。
- 横浜中華街（朝陽門）から山下公園中央口や、元町・中華街駅（4番出口）から横浜マリントワーにつながる動線については、建物のセットバックや空地の確保などにより、横浜中華街側から海や公園への見通し景観を確保するとともに、沿道に店舗やカフェ等のにぎわい機能を誘導することで、縦の回遊軸を強化します。
- 建物低層部の店舗が、前面の空地で海と緑を感じながら飲食を楽しむオープンカフェ等を実施することで、居心地の良い空間を創出します。
- 山下公園や道路などの公共空間と街区を一体的に活用し、民間のノウハウを取り入れながらイベントやマーケットを定期的開催するなど、にぎわいのある通りを生み出していきます。

【イメージ】



海と緑を感じられるまちづくり



ウォーカブルで居心地の良い道路空間

出典：iStock.com/EHStock

山下公園通りの道路空間の活用によるにぎわい創出の取組

横浜市では、公園・道路・街区の一体的なにぎわい創出の取組を行っています。令和6年10月には、山下公園で行われた「ワールドフェスタ・横浜2024」に合わせて山下公園通りを歩行者天国化し、ステージパフォーマンスや地元の飲食店によるグルメコーナーなどを展開するとともに、テーブルやイスなどの滞留環境を創出し、多くの方に足を運んでいただきました。今後、将来的な臨港幹線道路の整備や山下ふ頭の再開発の動向等を踏まえながら、地区内の車両交通の流入の抑制を検討するなど、歩行者優先の道路空間の形成に向けた取組を推進します。



令和6年10月 山下公園通り歩行者天国

■水際線の象徴となる街並みの形成

- ベイブリッジを車で渡る来街者やクルーズ客が、海から横浜を眺めて、ここが横浜だと実感できるような水際線の象徴となる街並みを形成します。
- 海に面して緑が広がり、歴史的建造物と調和した格調高い街並みが低層部に構えられ、上層部はシンボリックなデザインでスカイラインが形成されるなど、自然と歴史、新しさが融合した都市景観を創造します。
- 水際線とまち全体が一体となったダイナミックなイルミネーションを行うなど、国内随一の夜間の特別な景観を演出するとともに、日常時には、歴史的建造物のライトアップなどと調和した、落ち着いた美しい夜間景観を創り出していきます。

【イメージ】



水際線の象徴となる街並み

出典：iStock.com/Deejpilot

出典：iStock.com/miralex

【イメージ】



美しく落ち着いたある夜間景観の形成

出典：iStock.com/Zhang mengyang



出典：iStock.com/vwalakte

横浜らしい夜景を活かしたナイトタイムエコノミーの取組

横浜市では、国内外から選ばれる夜のコンテンツを創出することで、観光客を誘客し、回遊性向上や滞在時間の延長を図り、にぎわいづくりにつなげることを目的に、横浜ならではの港の景観を活かして、都心臨海部の街を光と音楽で一体的に演出する創造的イルミネーション事業「ヨルノヨ」や、横浜港で打ち上げる5分間の花火「横浜ナイトフラワーズ」などを実施しています。こうした取組が評価され、令和6年12月に「日本新三大夜景都市」に認定されました。今後、世界でも有名な夜景都市として認識されるよう、山下公園通り周辺地区をはじめ都心臨海部全体で横浜らしいナイトタイムエコノミーの拡大に取り組み、更なるにぎわい創出を図ります。



まち全体の光の演出風景 <ヨルノヨ>



横浜ナイトフラワーズ

■港町ならではの歴史・文化を継承

- 横浜の外国交易の歴史を象徴する旧英国七番館やホテルニューグランド等の歴史的建造物、灯台を象徴する横浜マリンタワーなど、港町ならではの魅力資源を活かした街並みを形成します。
- 歴史的建造物であるインペリアルビルが残り、かつて居留民でにぎわいを見せていた水町通りにおいては、来街者と地域の方が交流できる多目的空間やギャラリー、個性のある飲食店等が集積した、界索性のある通りを目指します。
- 港町ならではの良好な都市景観の形成に向けて、統一的な建物デザインや電線・電柱の地中化などを検討します。

【イメージ】



港町ならではの魅力資源を活かした街並み形成



界索性のある通りの形成（水町通り）

出典：iStock.com/Adam Calaitzis

出典：iStock.com/jan van der Wolf

② 今ある海辺と緑の風景と連動させた新たな GREEN 空間の創出

海を感じる山下公園の緑豊かな自然や山下公園通りの銀杏並木と連続した複層的な GREEN 空間を街区側にも生み出すことで、水際線の連続する緑をより魅力的にアップデートします。

新たな GREEN 空間に、企業や市民、来街者が集い、交流を促進することで新たなにぎわいを生み出していきます。

■WELL-BEING（※）な環境づくりによる、人々の交流やにぎわいの創出

- 開発等により街区内に複層的なまとまりのある GREEN 空間を創出し、働く人が安らげる環境や交流が生まれる場をつくることで、生産性の向上や新たなイノベーションの創出を促進します。
- 山下公園通りや水町通りに面してポケットパークなどの身近な緑を設けることで、市民や来街者が憩える居心地の良い空間を創出します。
- 公共空間や広場空間、建物等に積極的に緑を増やすことで、夏でも快適に過ごせる環境を創出します。
- 山下公園や山下公園通りの海を感じられる環境や開放的な GREEN 空間を活かして、コンサートやマルシェなどのイベント、ランニングや早朝ヨガなどの多様なアクティビティを誘発し、訪れる人々の更なる楽しみや生活の豊かさを創出します。

※ WELL-BEING…身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。（厚生労働省）

【イメージ】



公園から連続した複層的なまとまりのある GREEN 空間の確保

出典：iStock.com/MrNovel



人々が集い、新たなにぎわいや交流を生み出す場の創出

出典：iStock.com/Murat Kucukkarakasli

■子育て世代をはじめ多世代が自然に触れ、学べる場の創出

- 地域住民が共同で管理するコミュニティガーデンでの植物の育成の機会等を通じて、多世代が自然と触れ合い、交流を生み出す場を創出します。
- 野菜の栽培・収穫体験ができる場づくりや、収穫した野菜を食べる機会を通じた食育など、親子が気軽に楽しく「農」を体験できる機会を創出します。
- 子どもからシニア世代まで参加できる、自然に関するワークショップやセミナーを開催するなど、多世代が学べる場を創出します。

【イメージ】



次世代に対する環境教育の推進

■生物多様性を保全し、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ

- 屋上庭園やポケットパークなど、都市における水や緑を創出して、生物多様性の保全に貢献します。
- 建築物や公開空地等では、在来種に配慮した緑化を行うなど、地域の特性に応じた生態系を生み出していきます。
- 周辺エリアと連続する緑を創出して、生き物の生息・生育空間をつなぐエコロジカルネットワークを形成します。

【イメージ】



都市における生物多様性の保全

出典：iStock.com/yu-ji

③ 国内外から人や企業を惹きつける多彩な機能の導入

この場所で、「新たな体験をしたい」「滞在したい」「働きたい」「飲食しながら楽しみたい」と思えるような多彩な機能を誘導することで、このエリアにしかない魅力や体験価値を創出し、国内外から人や企業が集まる拠点を形成します。

■観光・体験型施設の充実

○近代日本の産業を支えた生糸貿易や日本初の臨海都市公園である山下公園など、様々なモノ・コトが発祥した本地区の歴史や文化を継承しながら、その魅力を発信するミュージアム施設や体験型コンテンツを導入します。

○音楽やショーなどを楽しめるライブレストランやカフェ等を建物低層部に設置し、前面の道路等の公共空間を一体的に活用した体験型イベントやマーケットを開催することで、にぎわい創出につなげていきます。

【イメージ】



体験型コンテンツの導入



低層部に連続するカフェやレストランなどのにぎわい機能

出典：iStock.com/Jerome LABOYRIE

観光資源を活かした体験型観光の提供

観光資源や公共空間を活用したにぎわい創出の取組の一環として、横浜市は令和5年10月に、大岡川周辺において、国内初となる水辺空間を活用した船上の体験型演劇「クルージング・イマーシブシアター」を実施しました。公演では、訪日外国人の方も楽しめるよう多言語対応も行いながら、横浜の歴史・文化を参加者に追体験いただくことで、水辺活用と周辺のまちのにぎわい創出や、夜間公演によるナイトタイムエコノミーの活性化に寄与する取組を行いました。



令和5年10月 クルージング・イマーシブシアター

■世界水準のエンターテインメントに触れられる場の創出

- 音楽ライブや映画祭等、世界水準のエンターテインメントを楽しめる施設を充実させ、来街者がいつ訪れてもワクワクするような体験の場を提供していきます。
- 本格的なオペラやバレエ等の舞台芸術を上演できる施設を整備し、主催者や演者など、様々な主体から選ばれる場を創出します。
- 市民が身近に文化芸術を体験し、表現する機会を創出することで、将来、文化芸術分野で活躍する人材の育成や豊かなライフスタイルの実現につなげていきます。

【イメージ】



エンターテインメント機能の充実

出典：iStock.com/egon69



文化芸術を体験できる場

出典：iStock.com/galinast

■質の高い滞在環境の整備

- 上質なホテルやサービスアパートメント、レジデンス等の導入により、高度人材を呼び込むとともに、滞在の促進による地域での消費拡大や恒常的なまちのにぎわい創出につなげます。
- 美しい海などの景色を楽しみながら、買い物や食事ができる商業空間を創出することで、滞在者の高質な滞在環境を実現します。
- 医療施設、スパ、フィットネスクラブ、健康的な食事を提供するレストランなど、ここで働く人や滞在する人の健康を増進する施設の充実を図ります。
- 横浜の夜景を楽しめるレストラン・バーの設置や、音楽の夜間公演、ナイトミュージアム等の開催により、夜間の滞在を促進させ、ナイトタイムエコノミーの活性化につなげていきます。

【イメージ】



眺望を活かした高質な滞在環境

出典：iStock.com/Pipop_Boosarakumwadi



交流を生み出す共用ラウンジ

出典：iStock.com/Explora_2005

道路空間や公開空地を活用した、夜のにぎわい創出に向けた取組

夜間の滞在促進の取組の一環として、横浜市では令和7年1月に山下公園通り周辺において公共空間等を活用した夜のにぎわい創出に向けた取組を実施しました。横浜マリントワー前の一部の公開空地と歩道空間を一体的に活用し、地域・事業者と連携しながら、飲食コンテンツの提供や滞在環境の創出を行いました。



令和7年1月 夜のにぎわい創出に向けた取組

■ビジネス・R&D（研究開発）拠点の形成

- 高いクリエイティビティや専門性・高度技術を有するエンジニアや研究者、クリエイターが求めるグローバル水準の就業・滞在環境を整えることで、国内外から人や企業を呼び込みます。
- 起業家やスタートアップ企業の成長を支援する環境を整備し、新たなコミュニティやビジネスチャンスなどを創出します。
- 世界中の新たな技術が集まる研究開発拠点など、人・モノ・技術のグローバルな交流拠点を形成します。
- 企業や研究機関と連携する大学やインターナショナルスクール等の教育機関を誘致し、産学連携を促進します。
- 海や緑を身近に感じられる地区の魅力を活かした開放的なワークスペースや景色を楽しめる共用ラウンジを有するオフィスを整備するなど、多くの人がここで働きたいと思えるような就業環境を創出します。
- 東京方面からのアクセスなど交通利便性が高く、海や緑が感じられるアーバンリゾートとしてのポテンシャルを活かしたワーケーションなどの環境を整備します。

【イメージ】



起業家やスタートアップ企業の
成長を支援する環境の整備



緑あふれる良好な就業環境

④ 来街者を迎え入れる結節点としての機能強化

緑と開放感あふれる広場空間の整備や、横浜の魅力を伝える観光インフォメーション機能の充実、水際線やまちを結ぶアクセス動線の強化、観光地等をつなぐ交通乗降機能の拡充など、来街者を迎え入れる玄関口としてふさわしい機能を充実させ、結節点としての機能強化を図ります。

■多様な人々が集い・交流できる空間の創出

- みなとみらいや関内駅方面から訪れる来街者や、大さん橋国際客船ターミナルに下船した来街者を迎え入れるゲートとして、開港の歴史やにぎわいを感じられ、多くの来街者が憩い交流できる開放的な広場空間を創出します。
- 元町・中華街駅から横浜マリンタワー、山下公園へとつながる歩行者動線の強化や、開放的なアトリウム空間の設置等により、人々が行き交い、交流を生み出す空間を創出します。

【イメージ】



多様な人々が集い、交流できる広場の創出

出典：iStock.com/ferrantraite



アトリウムなど、人々の交流を生み出す空間の創出

■観光インフォメーション機能の強化

- 地域の魅力を伝えるインフォメーション機能を充実させ、来街者に観光スポットやイベント、歴史や文化を感じる見どころを紹介することで、地域への回遊を促進します。
- 観光インフォメーション機能の導入においては、まちを巡るガイドツアーの実施や、地域のグルメを体験できる飲食・物産コーナーの設置など、本地区の魅力に触れることができる機能を持たせます。
- 多言語対応の案内設備を設置するなど、外国人観光客にも分かりやすい情報提供を行います。

【イメージ】



和とモダンを調和させた特色あるデザインの観光案内所



多言語対応等による観光インフォメーション機能の充実

出典：iStock.com/recep-bg

■交通機能・アクセス強化

- 観光バスや高速バス、タクシー等が乗降できる交通広場等の拡充を図ります。
- グリーンスローモビリティや、自動走行モビリティ、歩行領域モビリティ等、利便性が高く移動自体を楽しめる多彩な交通を充実させます。
- みなとみらいや関内駅方面から本地区につながる、歩行者や自動車の動線など、本地区へのアクセス強化について検討していきます。
- 元町・山手や中華街エリアと本地区をつなぐ歩行者動線の強化や、案内サインの充実等により、周辺エリアとの回遊性向上を図ります。
- 今後のまちづくりにより増加する交通量や、新たな交通手段の導入に合わせ、必要に応じて道路空間の再整備を検討していきます。

【イメージ】



交通広場等の拡充



周辺地区とのアクセス強化

出典：iStock.com/GoranQ

自動走行モビリティを活用した回遊性向上の取組

横浜市では、水際線や周辺エリアにおける回遊性向上に向けた取組を推進しています。令和5年9月には、歴史ある山下公園において、横浜ならではの水際線の景色を眺めながら、多世代が移動自体を楽しめる自動走行モビリティを走行させ、新たな移動手段の有効性を検証しました。



令和5年9月 自動走行モビリティの走行

⑤ 環境に配慮した持続可能なまちづくり

街区全体でエネルギーの効率化や再生可能エネルギーの利活用を図るなど、環境に配慮したまちづくりを推進します。

また、新たなグリーン社会の実現に向けて、市民や企業と共に、脱炭素、生物多様性の保全、資源循環等に取り組むことで、地区のブランド力を高め、国内外から人や企業、投資を呼び込むまちを実現します。

■地区全体における環境負荷低減の取組

- 気候テックやサーキュラーエコノミーに関連する企業を呼び込むことなどにより、この地区から環境課題の解決に寄与する取組を進めます。
- 太陽光や風力等の再生可能エネルギーの利活用、エネルギーセンターの整備など、街区全体でエネルギーの効率化や循環できる仕組みを検討します。
- 下水熱等のインフラから生み出される再生可能エネルギーや、クリーンエネルギーにより合成されるe-メタン等の環境に配慮したエネルギーを活用するなど、環境負荷の低減に向けた先進的な取組を推進します。
- 水再生センターで処理された下水処理水をトイレの洗浄水として再利用するシステムを導入するなど、水資源の有効活用を促進します。

【イメージ】



サーキュラーエコノミーの推進

出典：iStock.com/Yevheniia Bunha



再生可能エネルギーを活用した取組の推進

出典：iStock.com/Eoneren

■環境に配慮した建物開発

- 屋上・壁面の緑化や省エネルギー設備・エネルギーマネジメントシステムの導入など、建物ごとの省エネ性能の向上を図り、ZEB（※1）等の認証の取得を促進します。
- 環境課題に積極的に取り組むグローバル企業にとって魅力的な地区とするため、LEED（※2）やBREEAM（※3）等の海外で主要な環境性能評価を受けた建物整備を促進します。
- 木材の利用や建材の再利用を積極的に推進し、資源の有効活用と廃棄物の削減を図ることで、持続可能な建築を実現し、環境保護に貢献します。

- ※1 【ZEB (Net Zero Energy Building)】
建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建築物
- ※2 【LEED (Leadership in Energy and Environmental Design)】
米国グリーンビルディング協会 (USGBC) が開発・運用する、建物や敷地利用の環境性能を評価する国際認証制度
- ※3 【BREEAM (Building Research Establishment Environmental Assessment Method)】
英国建築研究所 (BRE) が1990年に開発した、建物の環境性能を評価する世界初のシステム

【イメージ】



木材の利用や建材の再利用の促進

出典：iStock.com/Pgiam

■サステナブルなライフスタイルを実現できるまちづくり

- 住む人、訪れる人、働く人に様々な場面や施設で環境行動を促すことで、一人ひとりの意識を変え、サステナブルなまちづくりの実現を図ります。
- 飲食店から出る廃棄物や食品残渣を資源としてバイオマス発電などに再利用・有効活用するなど、資源を循環させる取組を推進します。
- 地産地消やフードロス削減をテーマとしたマルシェ等のイベントを定期的で開催します。
- 環境に配慮したモビリティを導入し、企業や市民の利用を促進することで、移動手段の脱炭素化を図ります。
- 地区内におけるEV充電設備や水素ステーションなどを充実させ、電気自動車や水素燃料電池車の普及や利用を促進します。

【イメージ】



シェアモビリティの展開
出典：iStock.com/whitemay



水素ステーションの充実
出典：iStock.com/Scharfsinn86

⑥ 災害に強いまちづくり

多くの観光客、住む人・働く人でにぎわうエリアで、いつ起こるか分からない地震や火災、風水害などの災害に対応するため、都市インフラの整備や、市民や地域、企業と連携した日常からの備えの強化などを行い、安全・安心なまちづくりを推進していきます。

■災害に備えた都市インフラの整備

- 防災施設（津波避難施設、帰宅困難者一時滞在施設、防災広場、防災倉庫など）の整備を進め、地区の防災力を向上させます。
- 災害時においても電気や水道などが供給されるよう、ライフラインの耐震化を進めていきます。
- 再生可能エネルギーを利用した小規模発電設備の設置などによる分散型電源の展開により、災害時にも安定したエネルギー供給を確保します。
- 幹線通りに面したところに空地を設け、災害時にはアクセス性の高い防災広場として活用し、救助などの拠点とします。

【イメージ】



津波避難施設の整備



ライフラインの耐震化

■市民や地域、企業等が連携した発災前の備えの強化

- 発災時の帰宅困難者の発生に備えて、民間宿泊施設などを活用した一時滞在施設の確保や防災用品の備蓄など、行政と企業、地域が連携し、地区全体での災害に備えた取組を推進します。
- 外国人や高齢者、子育て世帯など、多様な人々に配慮した避難所環境を整えます。
- 来街者が迅速かつ正確な情報を得て適切に行動できるよう、デジタル機器を活用したリアルタイムでの災害情報の提供や、多言語対応の情報発信機能を整備します。
- 津波避難施設や帰宅困難者一時滞在施設等に誘導する地図や案内看板、SNS等の多様な手段により、来街者への案内を充実させます。
- 働く人や住む人などに合わせた防災啓発や体験型防災教育を行うことで、防災・減災意識の向上を図ります。
- 企業等と連携し、AIを活用した災害予測や情報共有など、最先端技術を活用した災害対策を推進していきます。

【イメージ】



デジタル機器を用いた情報発信機能の整備



防災訓練の実施